

あの日から四年…

失われた街が 語りかけるもの

リアス・アーク美術館
東日本大震災と
津波の記録

2/23_月 - 3/26_木

開館時間 10:00 ~ 17:00
休室日 日曜・祝日
入場無料

※ 2月21日(土) 記念講演会開催プレオープン
10:00 ~ 12:30 講演会終了後 ~ 17:00

「歩行が困難な被災物の堆積があり、かつ此处そこから煙が上がっている。時折吹く風が大破した家屋のトタン板を揺らす。バララン…カラランというような、それまで聞いたことの無い音が四方八方から聞こえていた。それ以外の音と言え、上空を飛び交うヘリコプターの風切音のみ。頭に浮かぶ言葉もない。」
(2011年3月13日気仙沼市魚市場前の状況)



Mm 明治大学博物館
MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM

主催 明治大学震災復興支援センター 明治大学博物館
リアス・アーク美術館写真展学生実行委員会
後援 気仙沼市 協力 リアス・アーク美術館



2011年6月1日、気仙沼市唐桑町只越の状況。この集落ではほとんどの家屋が粉碎され、引き波によって海の濃屑と化してしまっただけでなく、そんな中、この家は原形を保ち、引き波にも耐えて元の場所に残った。しかしその被害は致命的で、結果的には解体を余儀なくされた。一家は全員無事だった。子供たちは大好きな我が家に感謝とお別れの言葉を贈った。「ありがとう」。



2011年4月14日、気仙沼市南町の状況。男性は津波によって全壊した我が家から、何か大切なものや使えそうなものを回収しに来た。しかしどうしていいのかわからず、ただ呆然と立ち尽くしている。内部に入るのは危険だ。しかし、内部に入らなければ何も取り出せない。多くの被災者はここであきらめる。後日、自宅が解体される様子を見つめながら、転がり出てきたものを大切に持ち帰る。

リアス・アーク美術館（気仙沼市）は、2011年3月11日に発生した東日本大震災とその津波による被害という重大な出来事を、地域の重要な歴史・文化的記憶として後世に伝えるといった命題に向き合い、学芸員が中心となって災害被害の実態記録・調査を開始しました。約2年間で、3万点の写真を撮影し約250点の被災物を収集しています。この展覧会では、リアス・アーク美術館常設展「東日本大震災の記録と津波の災害史」で展示されている写真の中から39点を展示いたします。キャプションに記された“語り”によって写真は命を吹き込まれ、生じた出来事の重さが浮き彫りになります。

《開催記念講演会》

まちの記憶・震災の記憶／記録と表現について～リアス・アーク美術館の試み～

講師 山内宏泰氏（リアス・アーク美術館学芸員）

日時 2月21日（土）13：00～15：30 会場 駿河台キャンパス リバティタワー7階1073教室
参加費無料 ※申込不要、直接会場にお越しください

講演に先立ち、本学在学学生による震災復興支援活動の報告をおこないます

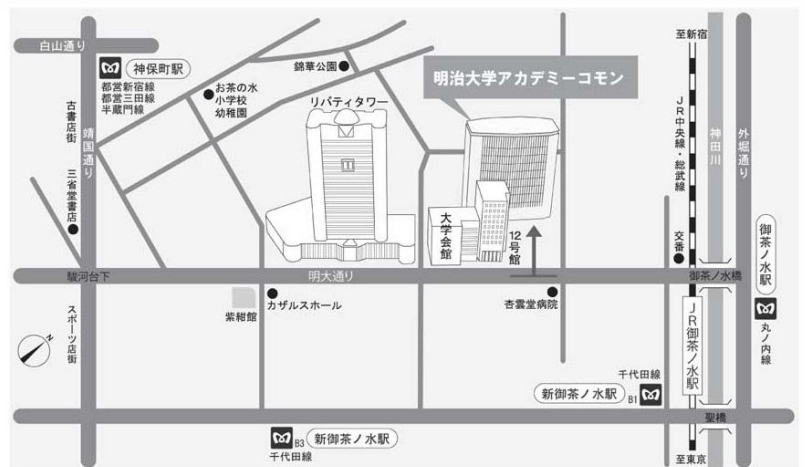
講演会終了後、展示室をご覧ください

※2月21日（土）記念講演会開催にともなうプレオープン 10：00～12：30・講演会終了後～17：00

リアス・アーク美術館

宮城県による「広域圏活性化プロジェクト事業」の一環である気仙沼・本吉広域圏の「地域文化創造プロジェクト事業」の中核施設として1994年10月25日に開館。管理運営を気仙沼市と南三陸町で構成する気仙沼・本吉地域広域行政事務組合がおこなっている。リアス（＝リアス式海岸）は気仙沼・南三陸地域を表し、アーク（＝方舟・はこぶね）は歴史・文化・芸術の保存・普及・継承の場を表している。「圏域住民への質の高い芸術文化に触れる機会の提供」「住民の創作活動や発表の場の提供」を目的に掲げる生涯学習施設であるが、美術作品のみならず民俗資料なども含めた地域文化に関わる所産を総合的に扱っている。大津波による罹災の後、2013年4月3日からは「東日本大震災の記録と津波の災害史」を常設展示としてオープンしている。

※写真のキャプション：「リアス・アーク美術館常設展示図録」から引用



Mm 明治大学博物館

MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミー・コモン1階
電話 03-3296-4448 <http://www.meiji.ac.jp/museum/>